

## 序文

平等という課題は、伝統的に女性の問題であると見なされている。女性たちはこれまでいろいろな活動をしてきたが、平等という目的のためになお一層躍進してきている。しかしながら、社会や家族における両性の平等や両性間の新たな労働配分は、そのことに興味を持っている女性だけで実現するはずがないということも、多くの人たちが認める純然たる事実である。

北欧のモデルは、女性と男性が、生活のすべての重要な領域において、同様の権利と責任、可能性をもつべきであるということを促進するものである。

北欧諸国の平等を実現するためのこれまでの取り組みでは、男性の目標と希望を保護するという目的としてきた。この見解が初の北欧男性会議を計画することになった。

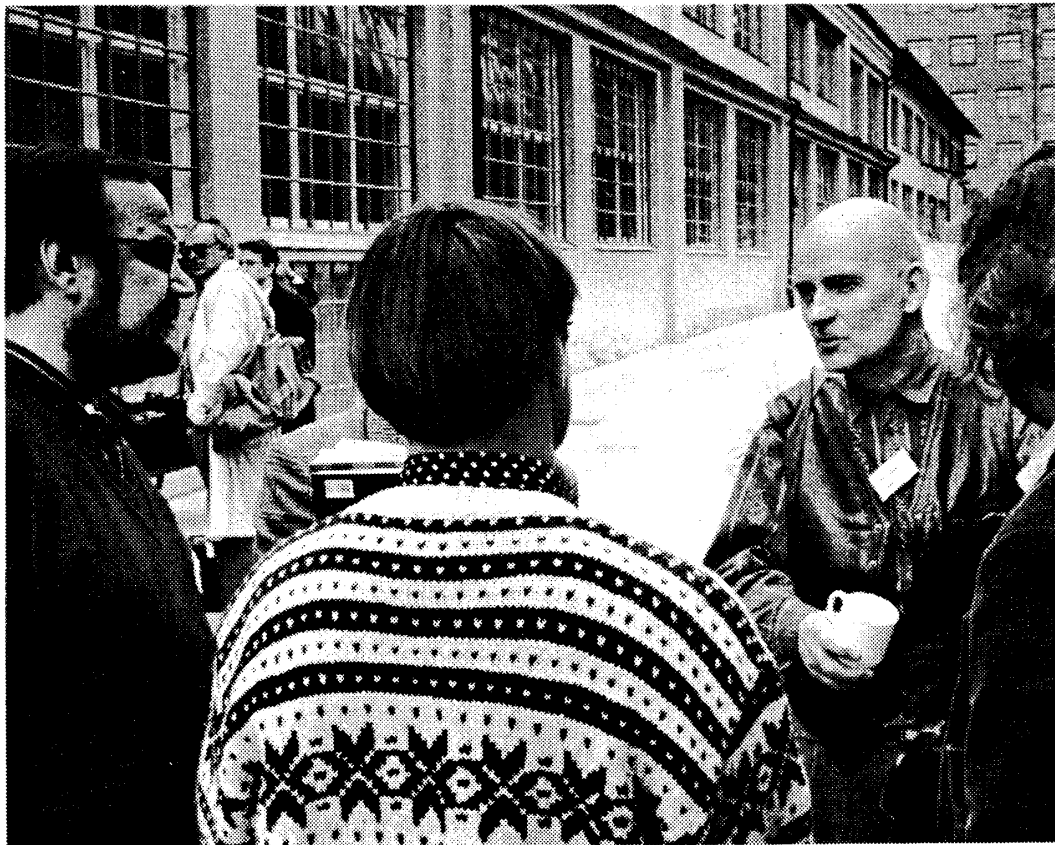
しかし私たちはここに留まらない。1995年から2000年にかけての北欧平等プログラムは、実際に育児休暇を取る父親を支援するための共同北欧キャンペーンを計画するという形で、男性役割にも焦点をあてている。また男性会議と関連していえば、北欧閣僚評議会が国際的なレベルに向かって、男性役割に関する議論を展開していくためにいくつかの具体的な提案をすることで一致した。

私たちは今、新たな男性を創造するためのプロセスの一部分にいる。

北欧閣僚評議会 事務総長

Per Stenback

(渋谷美穂)



議論は絶え間なく続いた。セミナー中、いたるところで鋭い質問がなされ、議論は休憩時間や夜にまで及んだ。

代表のほとんど(約 75%)が男性であり、これらの大多数が中年層であった。これらの人々は、60 年代、70 年代、80 年代という急激な変化の時代を生きてきた人々である。多くの若者も活発に質問をし発言した。

暴力や軽薄な考え、権力への固執というような現代の男性性のかかえるネガティブな話題も飛び出した。同時にポジティブな側面として、自分たちを明るい未来へと導くような話題もあった。議論は、不幸な側面よりも可能性について扱っていた。

積極的で男らしく、しかし破壊的ではない男性の理想像を創造しつつある少年や若い男性たちの持つ可能性は、中心的な論点の一つとして、子どもや子どもの要求に関する男性たちの集会や話し合いにおいて浮上してきた。

国家が育児に関する様々な休暇の形式を創設するとき、子どもとともに過ごす時間を男性も求めているという事実を考慮に入れるべきであるということが要求された。そこでは、それを実現するにはどうしたらよいかという問題について議論がなされた。例えば、給料を増額すること。男性がもっと育児に関心を持つこと。あるいは、同じ 10 代の女の子た

ちよりも落ち着きのない男の子たちは、自分たちが落ち着きがないことを理解する機会を与えられなければ、そのことを問題として自覚しない。学校はこのような点に関してどう改善されうるかなどといったことについて議論された。

影の薄い父親として、あるいは母親の援助者にすぎない存在としてではなく、私たち男性は自分の子どもと直接の関係を築くべきであり、築かなければならない。

(渋谷美穂)